

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(1)-エ	学びと生きがいを支える多様な生涯学習環境の充実	施策	②生涯学習機会の充実
			施策の小項目名	○人々の交流を生み出す文化・芸術活動の推進
主な取組	県立博物館・美術館「移動博物館」の開催		対応する成果指標	生涯学習講座のサテライト施設数
施策の方向	・沖縄県立博物館・美術館による「移動博物館」の実施や沖縄の自然・歴史・文化・芸術と結びついた体験学習を通して、人々の心に潤いを与え、生きがいをもたらし、人々の交流を生み出す文化・芸術活動の推進に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
指定管理者と連携した教育普及活動の一環として、博物館・美術館に日常的に来館することが困難な県内の離島・遠隔地の方々を対象に、沖縄の自然・歴史・文化・芸術等への理解を深めるための移動展を実施する。	県指定管理者	地域ゆかりの作品・文化財等の展示計画・実施		
		離島・本島遠隔地における移動展の来場者数(累計)		
		100人	100人(200人)	100人(300人)
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【 098-866-2768 】		関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	-			予算事業名	-	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
-	-			主な財源	実施方法	当初予算額
-	-			-	-	
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年度から延期となっていた渡嘉敷村での移動展を令和5年1月に実施した。関連催事も多数実施した。				令和6年1月に国頭村で開催する。開催地から要望のある恐竜骨格標本等の各種資料を展示するとともに、ワークショップ・体験教室等も開催する。		

活動指標名	離島・本島遠隔地における移動展の来場者数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
実績値	R2年度	R3年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
		-	-	496人	100人	100.0%	順調

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

3日間の開催期間中に開催地の渡嘉敷村の人口約700人のおよそ2/3 (496名 内訳：展示室331名、館長講演に19名、2回の展示解説会に72名、4つの関連催事74名) が来場し、展示・関連催事ともに大変好評であった。

(2) これまでの改善案の反映状況	
令和4年度の取組改善案	反映状況
-	新型コロナウイルス感染拡大防止のため3年ぶりに開催した。展示の規模を縮小し展示資料を精選し工夫しながら開催した。また必要人員も最小限として運営を工夫しながら開催した。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	移動展の持続的な開催のために、効率的・効果的な運営・開催方法の検討が必要である。	① 執行体制の改善	移動展の持続的な開催のために、効率的・効果的な実施形態、運営・開催方法を検討する。
④ 社会・経済情勢の変化 (外部環境の変化)	移動展に係る資料の輸送費は、昨今の社会情勢により高騰しており、効率的、効果的な開催方法の検討が必要である。	⑥ 変化に対応した取組の改善	移動展の趣旨目的と開催地からの要望を踏まえつつ、展示資料の精選をさらに行うとともに、人員をさらに効率的に配置するなど工夫する。
⑤ 県民ニーズの変化 (外部環境の変化)	離島・へき地での開催は2巡目となり、過去の大規模な展示を知る親世代が多く、過去と同規模のまたはより充実した内容の展示を希望する声大きい。	⑧ その他	開催地の県民ニーズに答えるべく、過去と同規模開催を行えるよう効率的・効果的な開催方法を検討する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(1)-エ	学びと生きがいを支える多様な生涯学習環境の充実	施策	②生涯学習機会の充実
			施策の小項目名	○人々の交流を生み出す文化・芸術活動の推進
主な取組	沖縄の自然・歴史・文化・芸術と結びついた体験学習		対応する成果指標	生涯学習講座のサテライト施設数
施策の方向	・沖縄県立博物館・美術館による「移動博物館」の実施や沖縄の自然・歴史・文化・芸術と結びついた体験学習を通して、人々の心に潤いを与え、生きがいをもたらし、人々の交流を生み出す文化・芸術活動の推進に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
指定管理者と連携した教育普及活動の一環として、郷土について関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会の提供を目的に、沖縄の自然や歴史、文化等と結びつけた体験学習等を実施する。	県,指定管理者	体験学習プログラムの編成・実施		
		体験ワークショップ、フィールドワーク等を通じた学びの場の提供回数(累計)		
		13回	18回(31回)	18回(49回)
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【 098-866-2768 】		関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	-			予算事業名	-	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
県単等	その他			主な財源	実施方法	当初予算額
				県単等	その他	
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
新型コロナ感染拡大防止のため中止していた「ふれあい体験室」を順次再開し、体験教室・フィールドワーク・ワークショップ等様々な取組を実施した。				夏休みの体験型ワークショップ・子どもフェスタ、外部講師の文化講座・学芸員講座（年間各12回開催）、体験講座等（年間3件以上）を開催する。		

活動指標名	体験ワークショップ、フィールドワーク等を通じた学びの場の提供回数（累計）		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	-	-	102回	13回	100.0%	順調	常設展ボランティアガイド、バックヤードツアー、展示解説会、文化講座、学芸員講座、体験学習教室、フィールドツアー、ワークショップ、okinawaワークショップ、子どもフェスタ等の取組を実施した。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>コロナ感染症の影響で、来館者は制限されたが、体験型ワークショップのニーズは高く、感染症対策を行いながら事業を遂行してきた。令和4年度は、復帰50周年記念事業や国民文化祭など多くの県主催催事に博物館が関わっており、企画展など広く一般県民向けの催事を増やした。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和4年度の取組改善案	反映状況
—	<p>コロナ禍の中で感染症対策を行いながら、復帰50年に関連した企画展・特別展に連動した催事、年間を通したワークショップ・各種講座等を実施した結果、回数は大きく伸びた。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	<p>コロナ禍においても、各種講座・体験教室等のニーズはとて高い。今後コロナの終息に伴い、各種展示会や講座等の実施内容の充実を図ることにより、さらに開催実績が伸びる可能性がある。</p>
⑦ その他(改善余地の検証等)	<p>ワークショップ等の終了後のアンケートを取ったところ、美術館でワークショップを行っていることを知らなかったとの回答があった。情報発信・周知方法の改善等を検討する必要がある。</p>

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
② 連携の強化・改善	<p>夏休み・冬休みの企画展等と連動した体験講座等を開設する。指定管理者の自主企画催事と連携し、開催する。</p>
⑤ 情報発信等の強化・改善	<p>指定管理者(美ら島財団)の協力のもと、広報物配布先の再検討、SNS等を活用した周知方法等を改善する。</p>